

第704回:「和尚打傘」とかけて

日本の演芸場で、「なぞかけ」という演し物がある。テレビ番組の「笑点」などによく登場する言葉遊びで、～とかけて何と解く～そのころは～というやつだ。となりの中国にも同じような遊びがあり、これを中国語で「歇後語(シエホウユイ)」という、強引に音読みすれば「けつごご」となるが。

破壊と混乱の文化大革命荒れ狂う真っ只中の1970年12月、毛沢東主席が、延安時代からの古い友人である米国ジャーナリストのエドガー・スノーと北京で再会した。中国共産党が国民党や日本軍から逃れて、蒙塵していた辺境の延安(陝西省)を30年代に飛び込み訪問し、毛沢東、周恩来、朱徳など多数の指導者との取材から世界的ベストセラー「中国の赤い星(Red Star over China)」を著したスノーにとり、これが最期の中国の旅となったが、毛沢東はスノー夫妻を温かく迎え入れ、ひと時の交歓に及んだ。

別れ際に毛沢東は、自分のことをおどけて、「和尚打傘=坊主が傘を差す」だと発言した。結論から先に云えば、毛沢東は「私はならず者のような、つまらぬ人物です」とへりくだったのだが、このとき主席の通訳を務めたのがブルックリン生まれで、当時37歳の「帰国華僑」Nancy Tang(唐聞生)だった。

ナンシー・タン女史は毛沢東専属の翻訳官として、その数年後にニクソン大統領やキッシンジャー補佐官などの通訳を務めた斯界のプロだが、少女時代をニューヨークで暮らしたせいで、中国の歴史や故事に疎く、毛沢東が連発する中国の古い駄洒落が理解できなかった。

だから彼女は毛沢東が云うとおり、「私は傘をさす僧侶だ」とそのまま英訳し、これを聞いたスノーも字句どおりそのまま理解し、よせばいいのに下手な文学的表現を加え、思い入れたっぷりに、「I am a lonely monk walking in the rain under a leaking umbrella.=私は破れ傘を手にした孤独な修行僧にすぎない」などとライフ誌に寄稿し、世界の大手メディアもそのまま転載してしまった。

だからライフ誌を読んだ世界のインテリたちは「知らなかった!毛沢東といえば、スターリンのような赤い帝国の黒い独裁者とはばかり思っていたが、彼の胸中が無人の荒野を彷徨する修行僧のように孤独であったとは」と誤解してしまった。日本語版ウィキペディアによると76年9月9日、毛沢東が逝去した時、朝日新聞の「天声人語」(76年9月11日)は「晩年の(毛沢東)主席がスノー氏に『自分は破れがさを片手に歩む孤独な修道僧にすぎない』ともらした言葉は、この不世出の革命家の内面を知る上で実に印象的だ」と、なんと人間の抜けた記事を書いている。

冷静になって考えると、数千万人の犠牲者を生んだといわれている文化大革命の仕掛け人が、「孤独な修行僧」のわけがない。これ、会談の当事者や、通訳、随員、そしてライフ編集部の中に、中国の歇後語を知る人物が一人もいなかったことから生じた大誤報であった。

「和尚打傘」を中国語として解釈すると、直訳は「坊主が傘を差す」だ。坊主が傘を差せば、ハゲアタマの上に、空も隠れてしまうので「無髪無天(ウーフア・ウーティエン)」の状況となる、そして無髪無天と同じ発音の「無法無天=ならずもの」に転換され、「オレはならず者だ」となるQ.E.D.・駄洒落の解説は難しい。

毛沢東は中国の建国者として党内抗争、抗日戦線、国共内戦を全て経験したツワモノのリーダーであり、「法も天もクソくらえ、オレはオレのやりたいようにやる!」と云い切ることができたが、21世紀の近代国家を統治する習近平総書記(兼国家主席)は、そうはいかない。

習総書記は12年に政権を掌握して以来、その10年間の大半を安定重視の政権運営に費やし、その結果

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

強固な政権基盤の確立に、ほぼ成功したかと思われていたが、前人未到の「総書記 3 期目入り」を目指す今年に入り、これまでにないほどの危機に見舞われている。

先ず、経済がダメだ。そろそろ 22 年 2Q の経済成長率が公表される時期だが、今年の中国は COVID-19 が中国を急襲した 2020 年を除けば、この 30 年で最低の成長率に終わる可能性が高そうだ。これまで中国経済を牽引してきた住宅市場は混乱から立ち直っておらず、債務不履行事案も各地で増えている。

また、習近平政権が「貧富の格差是正」を焦る余り、国内の大手テック企業や、教育産業など民営企業への締め付け強化をやり過ぎて、起業家精神溢れる事業家／投資家たちが意欲を喪失している。

政治関係では、ウクライナに対するロシアの軍事侵攻で、中国はロシア寄りの姿勢から西側諸国を完全に敵に回す一方、露プーチン大統領支持についても見直しを迫られている。

こんな状況下、秋の共産党大会の前哨戦は既に始まっている。各省などでは党委員会が開催され、最高指導部入りがある北京・上海・天津・重慶・広東などのトップは予定通り再任されており、有力者に大きな変化はなさそうだ。注目筋は次期首相候補の呼び声が高い李強上海市党委書記。コロナ感染抑え込みに失敗したことから彼の昇格を疑問視する声もあるが、習氏は最後まで彼を庇い切るか。

「習降李昇」など習派にとって耳障りなニュースが流れる中、湖北省トップ応勇党委書記が全人代副主任委員という名誉職に転任したのは意外だった。彼はコロナ退治のために、上海市長(No2)から湖北省党委書記(No1)に派遣された習氏の側近で、今秋の政治局入りは確定と思われたのだが。

4月27日には天津No2の廖国勳市長が急逝した。自殺と見られ、政権闘争が絡んでいる可能性がある。彼は習近平派の重鎮・栗戰書全人代委員長の側近で、今秋党大会で政治局入りがある有力視されていた。

暗雲漂う主流派かと思いきや、これを吹っ飛ばす目玉人事が王小洪公安部長の誕生だ。習近平総書記は10年前に政権を掌握するや、公安畑のドン周永康(元チャイナ・ナイン)を汚職容疑で逮捕し、彼に連なる李東生、孟宏偉、孫力軍、傅政華、劉彥平など閣僚／次官級の公安幹部を根こそぎ失脚させ、漸く福建省以来の側近・王小洪を警察トップに送り込んだ。これで枕を高くして眠れることができるだろう、習さんは。

権力闘争に妥協はつきものであり、水面下で数々のディールが行われ、一部には捨て駒も覚悟している習近平派だが、絶対に譲れないポストは首相と警察(公安)の2つ。後者は既にゲットしたが最重要の前者・首相ポストは、上海でのコロナ再発と都市封鎖の有無次第だろう。(了)

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

2022年(令和4年)7月4日

筆者プロフィール

杉野光男

東洋証券株式会社 主席エコノミスト

一橋大学商学部卒、三菱信託銀行(現三菱UFJ信託銀行)入社、上海華東師範大学へ留学

同行北京駐在員、上海駐在員事務所長、理事中国担当部長を経て、2007年より現職

著書 日本の常識は中国の非常識(時事通信社)、中国ビジネス笑劇場(光文社)等

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号

日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会 加入
本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040

ご投資にあたっての注意事項

外国証券等について

・外国証券等は、日本国内の取引所に上場されている銘柄や日本国内で募集または売出しがあった銘柄等の場合を除き、日本国の金融商品取引法に基づく企業内容等の開示が行われておりません。

手数料等およびリスクについて

①国内株式等の手数料等およびリスクについて

・国内株式等の売買取引には、約定代金に対して最大 1.2650% (税込み) の手数料をいただきます。約定代金の 1.2650% (税込み) に相当する額が 3,300 円 (税込み) に満たない場合は 3,300 円 (税込み)、売却約定代金が 3,300 円未満の場合は別途、当社が定めた方法により算出した金額をお支払いいただきます。国内株式等を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。国内株式等は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。

②外国株式等の手数料等およびリスクについて

・委託取引については、売買金額 (現地における約定代金) に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額) に対して最大 1.1000% (税込み) の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

・国内店頭取引については、お客さまに提示する売り・買い店頭取引価格は、直近の外国金融商品市場等における取引価格等を基準に合理的かつ適正な方法で基準価格を算出し、基準価格と売り・買い店頭取引価格との差がそれぞれ原則として 2.50% となるように設定したものです。

・外国株式等は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

③債券の手数料等およびリスクについて

・非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスクおよび為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

④投資信託の手数料等およびリスクについて

・投資信託のお取引にあたっては、申込 (一部の投資信託は換金) 手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

・投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価額が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

⑤株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

・株価指数先物取引には、約定代金に対し最大 0.0880% (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

・株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大 4.400% (税込み) の手数料をいただきます。約定代金の 4.400% (税込み) に相当する額が 2,750 円 (税込み) に満たない場合は 2,750 円 (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

・株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をご覧ください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

3/3